

文化情報誌

たわわ

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

2015
WINTER
No.93



ダンスが語りかける。

ボーカル&パフォーマンスグループ HANDSIGN(ハンドサイン)



テレビの真似をして家で踊るのもダンス、酔っぱらいが陽気に踊っているのもダンス。ダンスは決して敷居が高いものではなくて、いつでも誰でもどこでも始められるものと思っています。

僕たちも、ダンスをはじめたきっかけはそれぞれ違います。テレビ番組を見てかっこいいなと思って始めたメンバーもいれば、高校生の頃に遊びで始めたのがきっかけ、というメンバーも。

それぞれ別々にダンスを楽しんでいた僕たちが【ハンドサイン】になったのは、リーダーのTATSUがテレビドラマの手話を見て「手話をダンスに取り入れてみたい」と思ったのがきっかけです。

最初はTATSUとSHINGOの2人だったハンドサインは、今ではこの5人になりました。

♪手話ダンスの魅力♪

例えば、ダンスだけで「愛」を伝えるよりも手話ダンスで「愛」を伝えると、見ている人の心にストレートに響いている気がします。手話は会話の手段なので、ダンスとともに語りかけている僕たちの気持ちが、観ている人にドンと伝わるのが分かります。

まず、手話をしながら踊るといのはとても難しいです。不規則なリズムやテンポの変わるメロディーに、言葉もきちんと伝わるようにかっこいい振りをつけるのは大変な作業です。

オリジナル曲を作る時には、曲作りから振付の完成まで何カ月もかかることだってあります。

振付の手話部分を一緒に考えてくれるのはろう者です。

言葉の選び方が人によって違うように、ワークショップの指導風景手話の表現も人によって違うので、曲に合わせて違う人をお願いしています。作曲家や作詞者と同じように、手話の講師がいると思ってください。

手話の講師は手話サークルに通っていた時の先生や、僕たちが不定期でダンスを教えているろう者などさまざまです。活動をする上で知り合った人たちのつながりが僕たちを支えます。手話を通じてろう者と触れ合っていくうちに、接し方が分からずにいた障がいがある人への心の隔たりがなくなっていった気がします。手話を覚えることで、パフォーマーとして表現の幅が広がったり、知り合う人の幅が広がったりすることで、僕たちの考え方もどんどん変わっていきます。



ワークショップの指導風景

手話というコミュニケーションの手段をダンスに取り入れたことで、ダンスを通じて人に思いを伝えたい、という意識が高まりました。自分のためのダンスではなく、人に伝えるためのダンスをしたい。その思いが伝わっているといいな。



ひらつか七夕まつりでのパフォーマンス

♪子どもたちに手話を♪

ハンドサインは、エンターテイメントとして手話やダンスを楽しんでもらうための公演を、中学校や高校で精力的に行っています。

中高生は反応が素直。体育館に現れた僕たちを最初は不思議そうに見ていても、一端パフォーマンスを目にすると、「手話って面白い」とか「すぐにできそう」とか感じるみたいです。僕たちの真似をして「ありがとうございました」と手話でやってくれる子たちもいて、それがすごく嬉しいです。



中学校公演のワンシーン

手話をこれから学んでみたいですし、と書かれたアンケートを見たりすると、それぞれの子の生活から遠くにあったはずの手話が身近に感じてもらえた実感できます。

若い人たちは「いいな」と思ったことをすぐに吸収してくれます。英語でサンキューと言うように手話でありがとうと言える子たちが増えていってほしいです。手話ができれば、知り合える人の幅が広がります。子どもたちにはたくさんの可能性を手にしてほしいと思います。

ハンドサインは2015年で結成10年目を迎えます。

10年経った、という実感はそんなになくて、あっという間だったと感じます。遠回りもしながらここまでできてやっと地に足がついた気もするし、やっと方向性が見えてきたな、という気もします。

今は滑走路に立っていると思っています。これからは羽ばたきたい。

多くの人とふれあって支えてもらっている僕たちは、手話ダンスを通じてこれからも多くの人との繋がりを作るきっかけになっていきたいです。

【プロフィール】

HANDSIGN
(ハンドサイン)

2005年に結成されたボーカル&パフォーマンスグループ。

メンバーはTATSU、SHINGO、ROY、OzA、JIN。全員神奈川県出身。

2014年は県内の高校・中学校での公演や、鳥取県で行われた第14回全国障がい者芸術・文化祭とつとり大会にて「ふるさと手話プロジェクト」にゲスト参加。

音楽やダンスで全ての人達に笑顔になってもらえるように、老若男女問わず楽しめるようなLIVE空間を追求し続けている。

HANDSIGNホームページ <http://www.hand-sign.com/>



ひらつかの文化財を知ろう④

おうけつほ 横穴墓に描かれた古代の落書き?



線刻図

平塚市の西側に位置する大磯丘陵には、古墳時代後期（6～7世紀）に築かれた横穴墓が数多く発見されています。横穴墓は崖の岩盤に奥行3～4mほどの横穴を掘って遺骸を安置する古墳です。

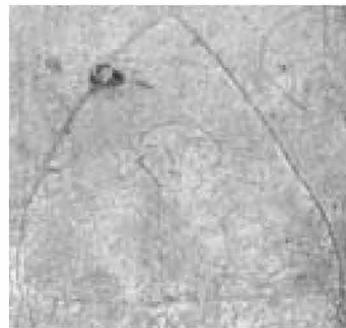
ここで紹介するのは万田の愛宕神社裏手にある11基からなる宮ノ入横穴墓群で、昭和58年（1983年）に調査が行われ、その内の1基には奥壁と天井や左右の壁一面に線刻で人物や幾何学文様が描かれていました。

掲載した図はおよそ奥行3m、横幅4mの範囲で、天井から両壁にかけての線刻です。下が入口側なので頭を奥にして寝そべるとこのように見えます。中央に頭を向けた顔が九から十か所にほぼ等間隔で描かれており、その間に放射状の線が表現されたいびつな円があり、右手前と左奥には対



入口から奥壁を望む

平塚市には、国、県、市それぞれが指定する文化財があります。日頃触れることの少ない、貴重な文化財について御紹介します。



人物

角線のひかれた区画のある方形、奥側には輪郭のはっきりしない格子目が描かれます。

この線刻画が横穴墓の造営時に描かれたものかどうかははっきりしていませんが、鼻を二つの穴で表現するのは他の横穴墓でもみられるので、一概に後世の落書きとは思えません。人物

と幾何学文様の構成からは何かの場面を表現したものと考えられます。集落を山の上から見ているのでしょうか。だとすれば、いびつな円は住居、また対角線のある方形は高床式の倉庫、格子目は畑や水田を表しているのかもしれませんが。皆さんはどのように見えますか。

なお、今もこの横穴墓は現存しますが、崩落等の危険があり見ることはできません。



幾何学文様

～平塚市文化振興基金活用事業～

♪学校に音楽家がやってきた♪

毎年恒例となってきた学校アウトリーチ事業もスタートしてから4年が過ぎました。今年は8校の学校に音楽家が訪れ、素晴らしい時間をもたらしてくれました。

今年初めて平塚市の小学校に来てくれた音楽家は、トロンボーン奏者の加藤直明さんと伴奏の大室晃子さんです。

トロンボーンは長い管を伸ばしたり縮めたりしながら音を鳴らす金管楽器です。どうやって動かせばあんなにきれいな音が出るのか不思議に思ったようで、子どもたちは加藤さん



の動きを食い入るように見ていました。また、加藤さんお手製の簡易トロンボーンを吹かせてもらった子どもたちは、マウスピースの扱い方に四苦八苦しながら楽しそうに音を鳴らしていました。大室

さんのソロコーナーでは、早く動く手に皆が釘付けになり、美しいピアノの音に耳を傾けていました。質問コーナーでは「そのレバーは何ですか」「どうやって持ち運ぶのですか」など、トロンボーンについての質問がいっぱい。子どもたちの好奇心を大いにくすぐる楽器だったようです。

学校アウトリーチ事業は、文化振興のために寄附された「平塚市文化振興基金」を活用して行われています。この事業は音楽の楽しさを伝えるだけでなく、子どもたちの心を豊かにし、この先に広がる無限の可能性に気付くきっかけとなることもあるものです。今後とも御寄附及びご支援をよろしくお願いいたします。

【平塚市文化振興基金に御協力をお願いいたします】

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方

(平成26年11月から平成27年2月) (敬称略)

- 平塚市ビルメンテナンス業協同組合
- 竹遊会
- 湘南ステーションビル株式会社

『史跡の風景』第12回

天空の墓 八塚古墳群



八塚古墳群付近の尾根から東方を望む



道路脇の墳丘

今から約1500年前、古墳時代も半ばを過ぎると、仁徳天皇陵古墳のような巨大な前方後円墳は姿を消してゆきます。入れ替わりに円墳を主とした小型の古墳が全国で多数作られるようになりました。このことは当時の社会構造に変化があったことをあらわしています。かつては少数の支配者が地域の富と権力を独占していましたが、実力をつけてきた「上流階級」の人々が現れ、古墳を作り装飾品などの宝物を副葬するようになったと考えられるのです。

この時代の古墳は一般的に多数が密集して作られ、「古墳群」と呼ばれます。神奈川県の遺跡台帳を見ると平塚市内では吉沢地区に三つの古墳群が記載されていますが、明確な遺構を見ることができるのが八塚（やづか・やつづか）古墳群です。古墳群は鷹取山から北へ延びる尾根の稜線上を墓域としています。

丘陵の先端にある吉沢の鎮守八剱（やつるぎ）神社を通り、尾根道を登っていくと、広い畑地が広がっています。ここは縄文時代後期（約4000年前）の集落があった場所で、内ムクリ遺跡と言います。さらに登って行くと、西側の畑の中に「八塚の夜泣き石」として知られる大



路傍にある古墳石室の石材

きな石が横たわっています。鎌倉時代の初め頃、土屋三郎遠が豊田次郎景俊に大石を送ったところ、石が夜な夜な泣き声をあげたため、元の場所に戻したという伝説が伝わっています。

この石は被葬者の棺を納めた石室の構造に使われた石材と考えられます。この古墳が古墳群の中で最北のものと考えられ、ここから南に数基の古墳が点在しているようです。昭和40年と昭和46年に3基の古墳が発掘調査され、直刀・鉄鏃などの武具、管玉・ガラス



畑の中の石室跡

小玉・金環などの装飾品が出土しました。調査地点と思われる場所には今でも石材が顔をのぞかせています。その南には崩れかけた墳丘が道路脇の畑中にあり、さらに進むと東側の雑木林の中に2か所ほど高まりが確認できます。

古墳が作られる場所は見晴らしの良いところが多く、こちらの尾根もすばらしい眺望に恵まれています。東側を向くと、右手には高麗山が見え眼下の日向岡越しには平塚市街を望み、更に相模湾を越えて三浦半島の山並みを見ることが出来ます。もちろん江の島のシーキャンドルもはっきりと見えています。北に目を転じれば相模の名峰大山と丹沢の連峰を見渡すことができる、気持ちの良い場所です。こうした場所に葬られた地域の実力者とその一族は、新しい法治国家の時代に向けて社会を変える原動力となっていたのです。

ひらつか市民スポーツフェスティバルでHANDSIGNと会おう!

第2回ひらつか市民スポーツフェスティバルが開催されます。

トップアスリートのトークショーや様々なスポーツ体験教室等、平塚市総合公園全施設を利用した、多くの人々が楽しめるスポーツイベントです。

開催日時 平成27年3月29日(日) 9時~15時

開催場所 平塚市総合公園

主催 ひらつか市民スポーツフェスティバル実行委員会

HANDSIGNのライブは、ひらつか市民スポーツフェスティバルのイベントの1つです。

「HANDSIGN手話ダンスライブ」

HANDSIGNの心に届くパフォーマンスや、手話ダンス教室参加者と作り上げた楽しいステージをぜひご覧ください。

時間 12時~13時

場所 平塚市総合公園野外ステージ(雨天決行)

お問い合わせ先 ひらつか市民スポーツフェスティバル実行委員会事務局 (0463-31-3060)



手話ダンス教室参加者との発表会の様子

発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成27年(2015年)2月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>

再生紙を使用しています